

INTERVIEW

市立奈良病院 管理者
西尾博至先生



【プロフィール】 西尾博至先生 1989年自治医科大学卒業。大阪府立病院で初期研修後、同救命救急センターに所属、1993年からは保健所との兼務となる。1996年府立泉州救命救急センターに着任。1998年より近畿大学医学部臨床検査医学教室へ、附属奈良病院総合診療科を経て、2005年市立奈良病院に赴任。2012年からは管理者に就任し、現在に至る。

患者さんの ニーズに応える医師、 地域のニーズに応える 病院を目指して。

聞き手：山田隆司 公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所所長

救急から総合診療へ

山田隆司(聞き手) 今日は、弱冠49歳にして市立奈良病院の管理者を務められている西尾博至先生にお話を伺います。まずは先生の経歴からお願い

いたします。

西尾博至 平成元年に自治医大を卒業しました。大阪府の12期生です。出身は大阪府ですが、親が奈

良に引っ越して, 今も実家は奈良にあります.

山田 奈良市ですか?

西尾 生駒郡の平群町というところで, 生駒市の少し南側の小さい町です. 私が中学のころから母親が県立奈良病院に看護師として勤め始めましたので, そのころから奈良の医療についていろいろ話を聞いていました.

山田 縁があったんですね. でも大阪府の12期生なので, デューティーは大阪だったわけですね.

西尾 そうです. 当時大阪府の自治医大卒業生は救命救急か, 保健所・公衆衛生などの医療行政職の二者択一を迫られましたが, 私は幸い救命救急の方を選ぶことができ, 初期研修は大阪府立病院(現 大阪府立急性期総合医療センター)救急診療科で救急コースを受けました. 24ヵ月の研修期間中15ヵ月が救急で残りは消化器外科と心臓内科, 麻酔科でした. 初期研修が終わってからの2年間も, 後期研修医というかたちでその救命救急センターに残ることができました. それでもやはり保健所のデューティーが必要ということで, 5年目から保健所と兼務で救命センターに3年間務めました.

山田 保健所を兼務したのですか?

西尾 保健所に週に3日間勤めて, 残りの2日は救命救急センターというかたちです. そういうかたちの兼務が3年続いて, そのあと8年目, 9年目が関西空港の対岸にある府立泉州救命救急センター(現 りんくう総合医療センター)に赴任しました.

山田 それは大阪府からの派遣ですか?

西尾 大阪府から泉佐野市の職員に出向というかたちでした.

山田 ずっと救命救急にいた医者にとって, 保健所はつまらなかったのではないですか?

西尾 当時はつまらないと思いましたが, 今から思えば違った視点で地域の医療全体を見るという意味ではよかったと思います. 行政の仕組みも分

かったし, 結核や食中毒も勉強できたし, 病院の医療監視も管轄のところは全て行きましたから.

山田 なるほど. 地域行政などの枠組みを勉強するには確かに保健所はいいですね.

西尾 ただずっとバリバリの三次救急を続けてきたので, 3年間スッポリ穴が空いたような感じだったので, 残りの2年はまた三次救急に100パーセント行かせていただいたんです.

それで義務が終わって, そのあとたまたま近畿大学医学部の臨床検査医学教室から臨床ができる医者がほしいと声をかけていただきました. 近畿大学医学部が生駒に奈良病院という分院を開設することになり, 総合診療科をつくるという話があったのですが, 臨床検査医学教室が総合診療科にスタッフを出すことになっていたのです. 臨床検査医学教室は一応割り振りのには臨床系ですが, やっている内容はほとんど基礎系だったんですね. それで臨床のできる関西圏, 近畿圏出身の卒業生はいないかということで, 声がかかったのです.

学位も取らせてもらえるということと, 私ほもともと総合診療がやりたくて自治医大に入っていたので, そちらへ行くことにしました.

山田 先生はもともと救急ではなく総合診療がやりたかったのですか?

西尾 はい. 山とか離島の診療所をやりたくて自治医大を選んだのですが, 大阪府にはなかった.

山田 それで, 近大の総合診療の話があった時にこれだ!と思ったわけですね.

西尾 そうです. 救命救急を10年近くやっていると, 現場で人が亡くなっていくのを見るのもそろそろつらくなってきたし, これからはもう少し患者さんと近い関係を持った医者をやりたいと思うようになったので, 10年目から近畿大学に行かせていただきました. トータル7年間近畿大学にお世話になりました.

山田 臨床検査から入って…….